

アジア経済マンスリー(2012年2月)

～世界経済の混乱を経てアジア新興国と中国経済の関係が深まる～

発表日：2012年2月29日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 西濱 徹(03-5221-4522)

<各国経済の現状判断>

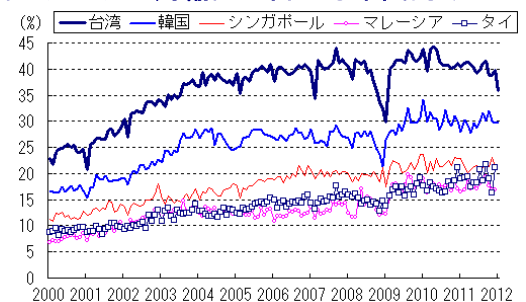
	方向性	コメント
中国	→	インフレ率が低下する中、金融当局は景気に配慮して金融緩和に動いている。不動産市況の調整による内需の下押しや世界経済の減速は重石になるが、しばらくは緩やかな景気拡大が続くと見込まれる。
インド	→	インフレ率はピークアウトしており、旺盛な消費を後押しすると期待される。金融当局は金融政策の軸足を経済成長にシフトさせたが、サービス価格は高止まりするなど物価上昇圧力は熾っており、慎重な対応が望まれる。
韓国	↘	先進国の景気減速により輸出や生産に悪影響が現れつつある。インフレ率は低下しつつあるが、昨年後半のウォン安や国際商品市況の高止まりが新たな物価上昇要因に繋がるリスクもあり、難しい政策判断が迫られている。
台湾	↘	先進国の景気減速により輸出や生産は頭打ちしている。タイの洪水による代替供給や底堅い雇用による内需の下支えはあるが、足下では物価上昇圧力が熾っており、しばらく景気の足取りは重い状況が続こう。
香港	→	中国本土からの資金流入が景気を下支えし、堅調な雇用も内需を支えている。政府は物価抑制策を続ける方針を明らかにしており、行政長官選後も大きな政策転換が起こる可能性は大きくないと見込まれる。
シンガポール	→	世界経済の減速による悪影響を受け易いが、足下では堅調な雇用を背景に内需は底堅い。アジア域内での貿易拡大が外需を下支えしており、金融市場の小康状態を追い風に海外資金の流入も続いている。
マレーシア	→	輸出依存度が高く、世界経済の減速による影響を受け易いが、雇用改善などが内需を下支えしている。今年も政府はインフラ投資による景気対策を継続しており、タイの復興も景気の押し上げに繋がると期待される。
タイ	↗	乾季入りしたことで洪水被害は最悪期を脱しており、工業団地の復旧による景気の押し上げが期待される。ただし、政府の復興事業の進捗は遅れており、景気の本格回復は4-6月期にずれ込む可能性が高まっている。
インドネシア	→	インフレ率の低下で金融緩和の余地は拡大。内需の堅調を背景に依然景気は底堅く、政府はインフラ投資の拡充による景気刺激も図っており、今後も堅調な景気が続く見込み。インフレリスクの再燃には要注意。
フィリピン	→	世界経済の減速にも拘らず海外労働者の送金は底堅く、インフレ率のピークアウトなども内需を下支えしている。しかし、足下の輸出は大幅に減速しており、先行きの景気の不透明感は払拭出来ていない。
ベトナム	↘	インフレ率はピークアウトしているが、世界経済の減速が景気の重石になっている。インフレ率の低下を背景に金融当局は金融緩和を示唆しているが、物価上昇圧力も熾ん中では慎重な対応が求められる。

※方向性は、経済の見通しや政治及び政策の動向を総合的に勘案して判断した、前後1～2ヶ月のモメンタムを示しています。

《アジア新興国の中国への依存度は年々拡大している。欧州問題の懸念が熾るなか、今後もこうした傾向は続こう》

- 欧米先進国を中心とする世界経済の減速懸念の高まりや、昨夏の欧州債務問題の再燃後の国際金融市場の混乱による世界的なマネーフローの変化などにより、昨年後半はアジア新興国においても景気の減速感が高まった。事実、輸出依存度が相対的に高い国では年後半の経済成長率が前期比マイナス成長に陥る国もあり、世界的な貿易縮小はアジア新興国の景気を下押しした。しかし、各国政府は公共投資の拡充など内需喚起策により景気を下支えしており、これはアジア新興国の景気の底堅さに繋がっている。また、少なからずの国において10-12月期の輸出が前期比プラスとなっているが、世界経済の減速が顕著であったにも拘らず外需が底堅かった背景には、アジア域内での貿易量拡大がある。アジア新興国の輸出に占める中国(含、香港)向けの割合も上昇し、以前に比べて輸出が欧米先進国の景気に左右されにくい構造に変化しつつある。ただし、中国は輸入のうち約3割を輸出財向けの原材料や部材などが占めていることから、アジア新興国にとっては間接的に中国の輸出減速の悪影

図 アジアの財輸出に占める中国向けの比率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

響を受けること可能性は残る。

- 中国の輸出に占める欧州向けの割合は2割を上回るため、欧州経済の減速による輸出への悪影響は小さくない。多くのアジア新興国にとって欧州は必ずしも主要輸出先ではないが、欧州経済の減速は間接的にアジア新興国の輸出を下押しする懸念がある。また、昨年後半大きく混乱した国際金融市場は小康状態を取り戻しており、欧州諸国のギリシャ支援合意で市場は落ち着いている。しかし、当のギリシャによる構造改革が遅れば、欧州問題への懸念が再び高まる可能性はゼロでなく、欧州経済を取り巻く状況は依然不透明である。アジア新興国においても世界的な信用不安の再燃により海外資金が逆流して信用収縮を引き起こし、景気が減速する可能性は依然残っている。
- 世界金融危機後は、中国が大規模な景気対策を行って固定資本投資などの内需を喚起し、これはアジア新興国の中国向け輸出も押し上げた。今後リセッションが懸念される事態になれば、財政面で依然余裕のある中国は再び大規模な景気刺激策を打ち出すと思われ、アジア新興国経済を支えることも期待される。ただし、中国の内需は固定資本投資に偏重していることから、前回同様の景気刺激策が実施される場合、中国向けの資本財輸出が多くないアジア新興国にとっては直接的効果が乏しい可能性はある。一方、中国政府は個人消費と資本投資のバランスの採れた持続的な経済成長の達成を目標にしていることを鑑みれば、今後の景気刺激策は「消費市場」として発展を図る方向に向かうとみている。結果、アジア新興国にとっては消費市場である中国向け輸出の拡大を図ることが可能になり、中国経済への依存度は一段と高まろう。中国はASEAN諸国などとの貿易決済に人民元の利用を解禁しており、実質的な「人民元経済圏」の動きを加速することも期待される。

《中国の個人消費拡大に向けた政策は、アジア域内経済のさらなる一体化をもたらすことになる》

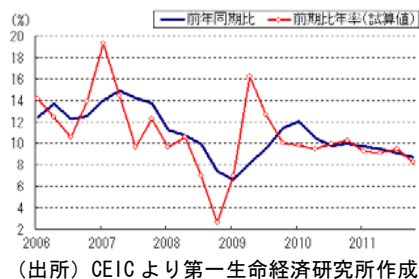
- 多くのアジア新興国は今年も公共投資による景気刺激を図っており、インフラ投資などを通じて中国に次ぐ生産立地化を目指す動きもある。アジア新興国の中でもASEAN諸国の多くは工業化の途上にあり、国民の多くは農業従事者であることから、工業化による雇用機会の拡大は経済成長を大きく促すと見込まれる。人件費が上昇している中国沿海部においては工場を人件費の低い同国内陸部やASEANに移す動きも進んでおり、アジアの域内分業は新たな段階に入りつつある。近年は「走出去」政策による中国資本による海外への進出が目立っているが、これらは主に鉱物資源開発や「フロンティア市場」の開発が中心である。一方、足下ではアジア新興国資本の海外進出も活発化し、これらが中国進出を図る動きも出ており、資本関係の強化を通じてアジア経済の一体化が進む可能性もある。
- 昨年アジア新興国にとっては「インフレ」が最大のテーマであったが、足下ではインフレ率はピークアウトしており、先行きもベース効果などによってインフレ率のさらなる低下が予想される。過剰流動性相場による国際商品市況の高止まりでエネルギー価格の上昇懸念はあるものの、アジア新興国においてはインフレ率の低下による金融緩和余地の拡大が期待され、物価と金利の低下が各国の内需を促すであろう。域内大国である中国が個人消費の拡大に本腰を入れれば、アジア全体における潜在需要の飛躍的な拡大に繋がり、アジア域内の生産体制の再構築を通じて「アジア経済圏」の拡大を促そう。世界経済の混乱を経て、中国とアジア新興国の間の貿易は一段と活発化し、域内経済の一体化が進むであろう。

以 上

＜中国主要経済指標＞

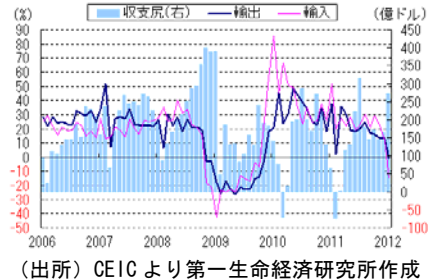
- 1月の輸出額は前年比▲0.5%と26ヶ月ぶりに前年割れとなった。今年は春節の連休が1月に集中したためにその影響が出たが、日数調整ベースの前月比も▲3.3%減少している。一方の輸入額も前年比▲15.3%と27ヶ月ぶりに前年割れとなり、日数調整ベースの前月比も▲2.9%と前月に続いて減少し、先行きの輸出の減速を懸念した原材料や部材の調達抑制が広がっている。結果、貿易収支は+272.78億ドルと前月（+165.17億ドル）から黒字幅が拡大した。

図 CH-1 実質 GDP 成長率



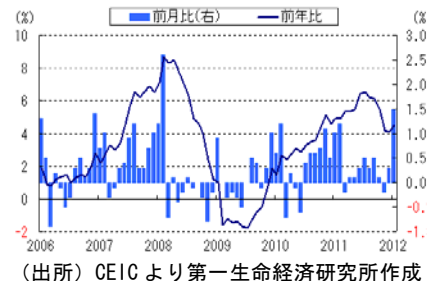
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-2 貿易動向



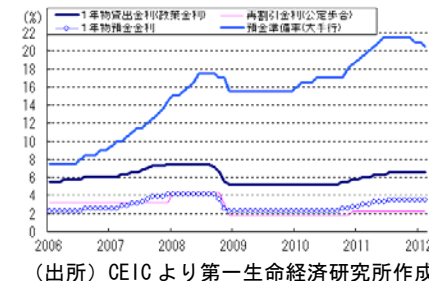
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-7 消費者物価



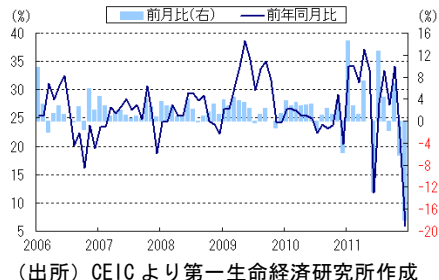
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-8 金融政策



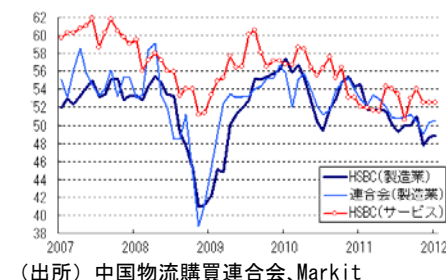
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-3 固定資産投資



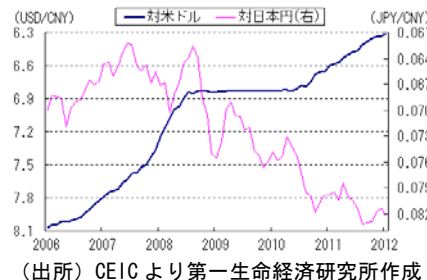
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-4 製造業・サービス業 PMI



(出所) 中国物流購買連合会、Markit

図 CH-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-10 株式相場(月次)



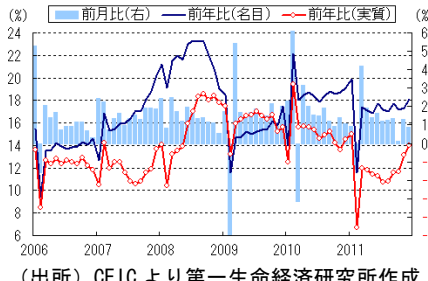
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-5 鉱工業生産



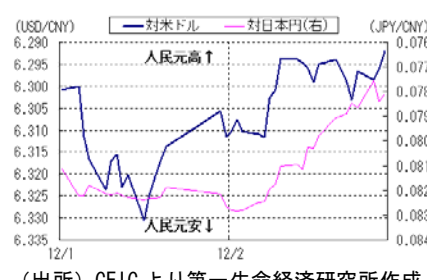
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-6 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-12 株式相場(日次)

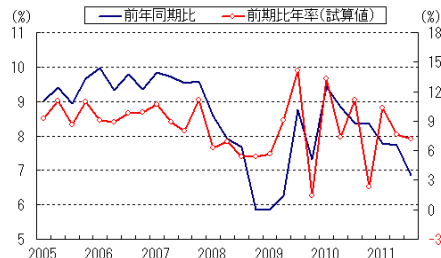


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜インド主要経済指標＞

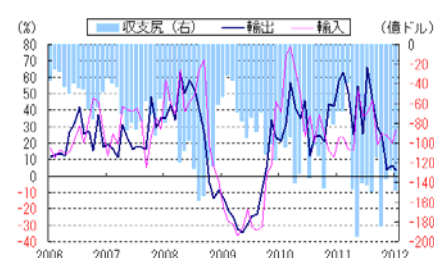
- 1月の輸出額は前年比+3.6%と前月（同+6.3%）から減速したものの、前月比は2ヶ月連続で増加した。一方の輸入額は前年比+28.2%と前月（同+19.8%）から加速し、底堅い内需を反映して前月比も2ヶ月連続で増加している。結果、貿易収支は▲147.00億ドルと前月（▲127.37億ドル）から赤字幅が拡大した。

図 IN-1 実質 GDP 成長率



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-2 貿易動向



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-3 インフラ動向



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-4 製造業・サービス業 PMI



（出所）Markit より第一生命経済研究所作成

図 IN-5 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

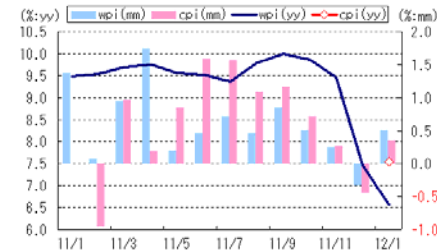
図 IN-6 四輪車国内販売台数



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

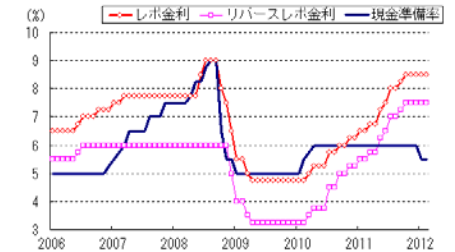
- 1月の卸売物価は前年比+6.55%と4ヶ月連続で減速し、26ヶ月ぶりの低い伸びとなった。ただし、食料品価格の上昇や価格転嫁を背景に前月比は+0.51%と2ヶ月ぶりに上昇している。1月から新たな消費者物価が公表されており、これ ha 前年比+7.55%と卸売物価の伸びを上回った。食料品やエネルギー価格の上昇を反映して、前月比も+0.35%と2ヶ月ぶりに上昇している。これまで卸売物価に反映されてこなかったサービス価格が依然高止まりしており、物価上昇率の高止まりを招いている。卸売物価同様にベース効果の影響などで先行きの上昇率は低下が見込まれ、金融緩和を後押しすると見込まれる。

図 IN-7 物価動向



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-9 為替相場（月次）



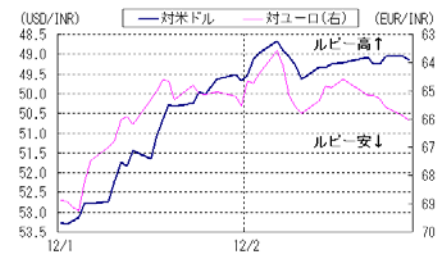
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜韓国主要経済指標＞

- 1月の輸出額は前年比▲7.0%と27ヶ月ぶりに前年比マイナスとなり、前月比も3ヶ月ぶりに減少するなど中国の春節連休の影響が出た。一方の輸入額は前年比+3.3%と前月（同+13.6%）から減速し、前月比も3ヶ月ぶりに減少した。結果、貿易収支は▲20.33億ドルと2年ぶりの貿易赤字に転じている。

図 KR-1 実質 GDP 成長率



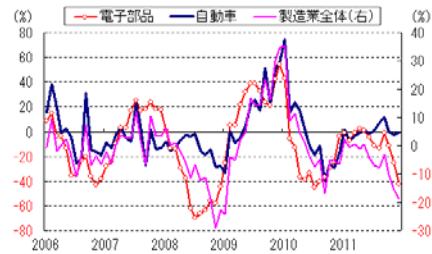
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-2 貿易動向



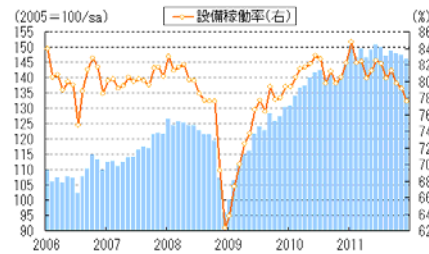
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-3 出荷・在庫バランス



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-4 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-5 雇用環境



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-6 小売売上高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

- 1月の消費者物価は前年比+3.4%と前月（同+4.2%）から減速して3ヶ月ぶりにインフレ目標（2～4%）に収まった。食料品やエネルギー価格の上昇を反映して前月比は+0.48%に加速したが、コア物価は前年同月比+3.16%に減速、前月比も+0.29%に減速しており物価上昇圧力は緩和している。
- 9日、韓国銀行は金融政策委員会において8回連続で政策金利を3.25%に据え置いた。景気の減速感が高まっており、物価上昇圧力も後退しているが、原油価格の高止まりやウォン安による輸入物価の上昇リスクも懸念され、当局は先行きの物価について上昇リスクが残るとの見通しを示している。しばらく金融政策は現行水準で据え置かれる可能性が高い。

図 KR-7 消費者物価（前年比）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-9 為替相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-12 株式相場（日次）

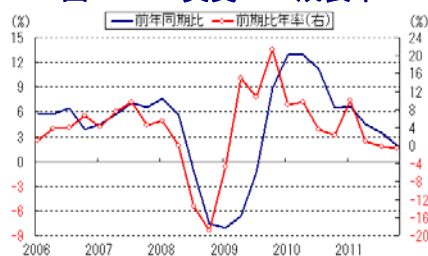


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜台湾主要経済指標＞

- 10-12 月期の実質GDP成長率は前年比+1.89%と前期（同+3.45%）から減速。前期比年率も▲0.59%と2四半期連続でマイナス成長となった。タイ洪水の代替需要で輸出はわずかに拡大したが、世界経済の減速や海外資金の流出などが影響して内需は減速した。
- 1月の輸出額は前年比▲16.8%と37ヶ月ぶりに前年割れとなり、前月比も2ヶ月ぶりに減少した。輸入額は前年比▲11.9%と前月（同▲2.7%）からマイナス幅が拡大したが、前月比は2ヶ月連続で増加した。結果、貿易収支は+4.20億ドルと前月（+23.18億ドル）から黒字幅が縮小した。

図 TW-1 実質 GDP 成長率



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-2 貿易動向



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-3 出荷・在庫バランス（電子部品）



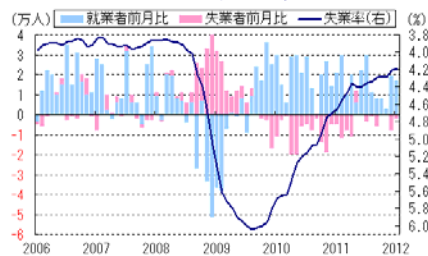
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-4 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-5 雇用環境



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-6 小売売上高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

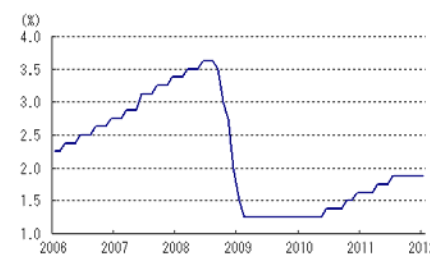
- 1月の消費者物価は前年比+2.37%と前月（同+2.01%）から加速した。食料品価格は落ち着いているが、サービス価格が上昇して前月比は+0.33%と前月（同+0.23%）から加速した。コア物価も前年比+1.61%に加速しており、昨年後半の台湾ドル安による輸入物価の上昇が物価を押し上げている。足下のインフレ率は上昇しているが、景気刺激の観点から利下げに踏み切る可能性も窺っている。

図 TW-7 消費者物価（前年比）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-9 為替相場（月次）



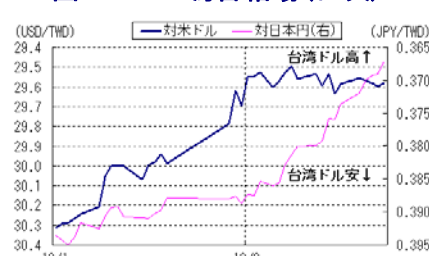
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-10 株式相場（月次）



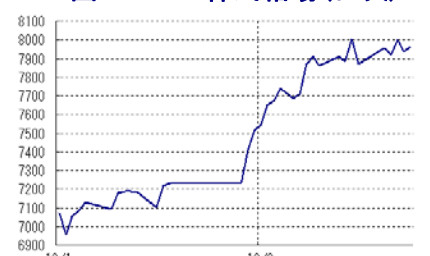
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜香港主要経済指標＞

- 10-12 月期の実質GDP成長率は前年比+3.0%と前期（同+4.3%）から減速した。前期比年率は+1.55%と前期（同+0.45%）から加速しており、内需の減速感が高まったものの、中国本土の底堅い需要を反映して外需の伸びが拡大して景気を下支えた。
- 1 月の輸出額は前年比▲8.6%と 4 ヶ月ぶりに前年割れとなり、前月比も 2 ヶ月ぶりに減少した。一方の輸入額も前年比▲10.5%と 27 ヶ月ぶりに前年割れとなり、中国本土の春節連休の影響で前月比も大幅に減少した。結果、貿易収支は▲88.56 億HKドルと前月（▲489.10 億HKドル）から赤字幅が縮小した。

図 HK-1 実質 GDP 成長率

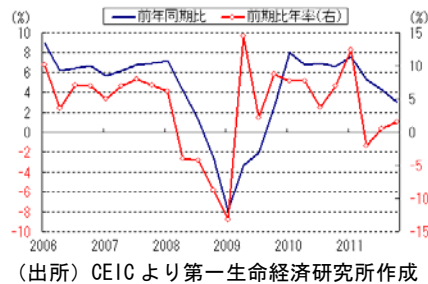


図 HK-2 貿易動向

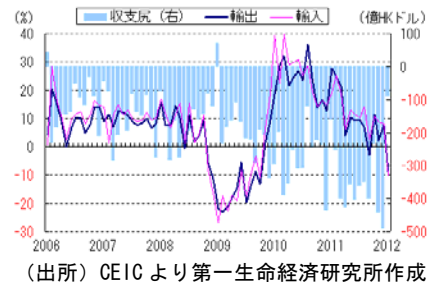


図 HK-7 消費者物価(前年比)

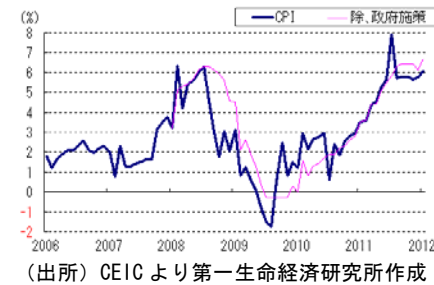


図 HK-8 金融政策

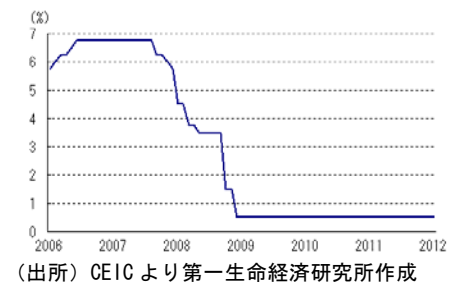


図 HK-3 来訪者数

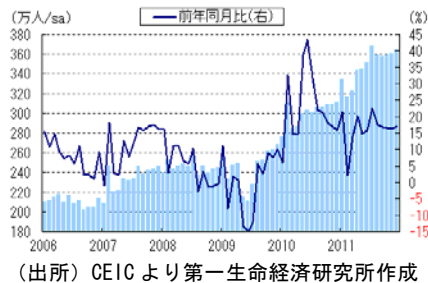


図 HK-4 小売売上高

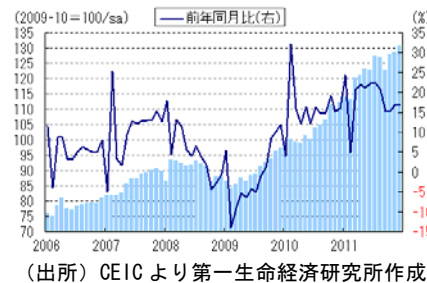


図 HK-9 為替相場(月次)

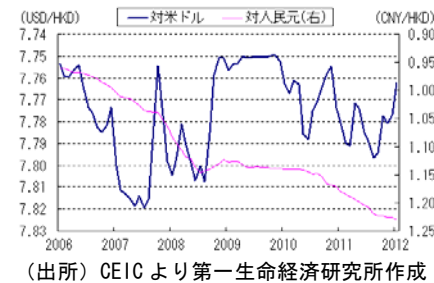


図 HK-10 株式相場(月次)



図 HK-5 雇用環境

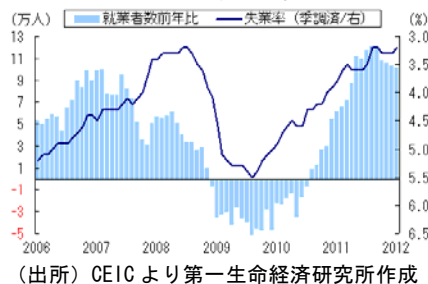


図 HK-6 不動産価格

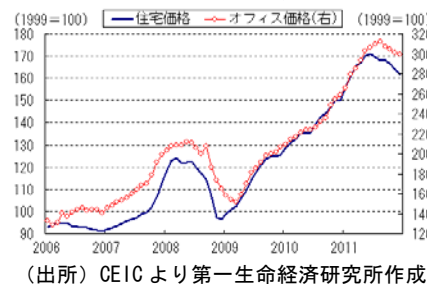


図 HK-11 為替相場(日次)

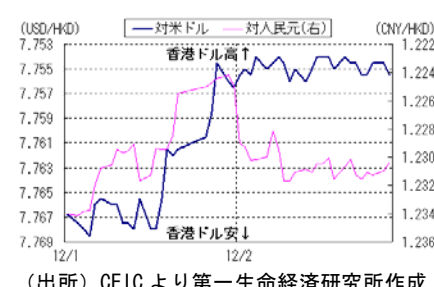


図 HK-12 株式相場(日次)



＜シンガポール主要経済指標＞

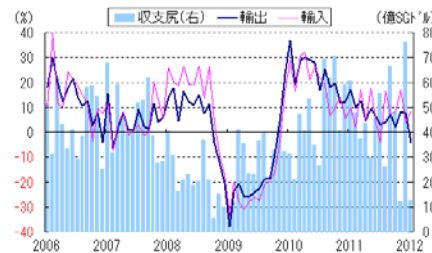
- 1月の非石油輸出は前年比▲2.1%と前月（同+9.0%）から減速した。前月比は+0.9%と3ヶ月連続で増加しており、アジアの底堅い景気を反映している。石油輸出も前月比+5.7%と3ヶ月連続で増加し、総輸出額は前年比▲4.0%と27ヶ月ぶりにマイナスになったが、前月比+2.4%と6ヶ月連続で増加した。一方、輸入額は前年比+8.4%と前月（同+4.0%）から加速し、原材料輸入の増加を反映して前月比も+23.2%と大きく拡大した。結果、貿易収支は+12.54億SGドルと前月（+76.13億SGドル）から黒字幅が縮小した。

図 SG-1 実質 GDP 成長率



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-2 貿易動向



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-3 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-4 小売売上高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-5 雇用環境



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

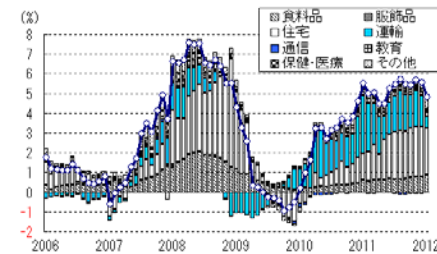
図 SG-6 来訪者数



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

- 1月の消費者物価は前年比+4.8%と前月（同+5.5%）から減速した。食料品やエネルギー価格の落ち着きを背景に前月比も+0.58%と前月（同+0.66%）から減速しており、物価上昇圧力は後退している。昨年後半のSGドル安圧力は輸入物価の上昇リスクを高めたが、足下では金融市場の落ち着きを背景に上昇に転じており、これも物価上昇圧力の後退に繋がっている。

図 SG-7 消費者物価（前年比）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-8 市場金利



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-9 為替相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜マレーシア主要経済指標＞

- 10-12 月期の実質GDP成長率は前年比+5.1%となり、前期（同+5.8%）から減速。前期比年率は+5.4%と前期（同+4.8%）から加速して底堅い景気が続いた。タイの洪水による代替需要で生産は底堅く、公共投資も内需を下支えし、景気は堅調に推移した。
- 12 月の輸出額は前年比+6.1%と前月（同+8.0%）から減速した。前月比は2ヶ月ぶりに増加に転じ、代替調達は輸出を後押しした。輸入額は前年比+10.4%と前月（同+8.4%）から加速した。前月比も増加し、部材調達網の復旧や部材輸入の増加が後押ししている。結果、貿易収支は+83.10 億リンギと前月（+94.86 億リンギ）から黒字幅が縮小した。

図 MY-1 実質 GDP 成長率



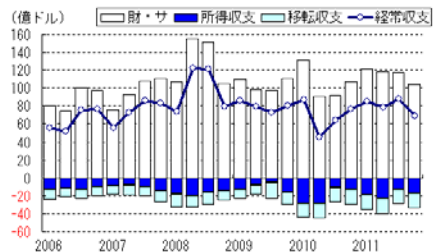
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-2 貿易動向



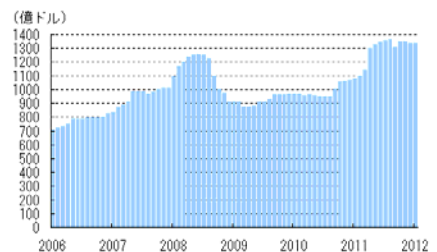
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-3 経常収支



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-4 外貨準備高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-5 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

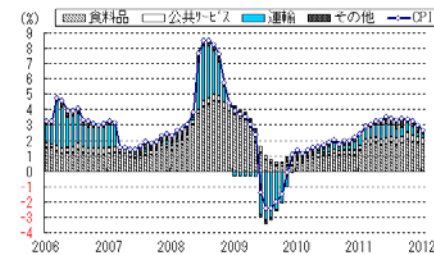
図 MY-6 自動車販売



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

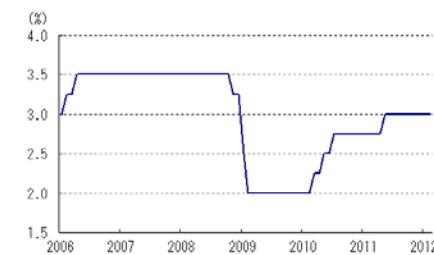
- 1 月の消費者物価は前年比+2.7%と前月（同+3.0%）から減速した。食料品価格の上昇を背景に、前月比は+0.29%と前月（同+0.10%）から加速するなど物価上昇圧力は残るものの、足下の景気減速を反映してインフレ率は低下している。足下では金融市場の落ち着きを反映してリンギ相場は小康状態を取り戻しており、物価は安定しよう。

図 MY-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-9 為替相場(月次)



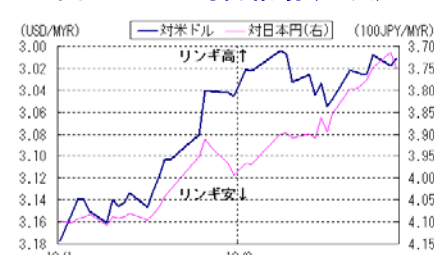
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜タイ主要経済指標＞

- 10-12 月期の実質GDP成長率は前年比▲9.0%と9四半期ぶりのマイナス成長となった。前期比年率は▲36.4%となり、大洪水による影響で過去最大の落ち込みとなった。製造業のほか、観光業や金融仲介業でも減速感が高まるなどサービス業全般で生産が落ち込んだ。
- 12 月の輸出額は前年比▲2.0%と前月（同▲12.4%）からマイナス幅が縮小。大洪水による生産停止からの回復が進んでいる。一方、輸入額も前年比+19.1%と2ヶ月ぶりにプラスとなった。生産設備需要の拡大で輸入が拡大し、前月比は1割を上回る拡大となった。結果、貿易収支は▲21.30 億ドルと前月（▲13.73 億ドル）から赤字幅が拡大した。

図 TH-1 実質 GDP 成長率



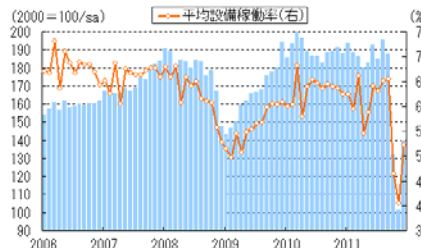
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-2 貿易動向



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-3 鉱工業生産と設備稼働率



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-4 来訪者数



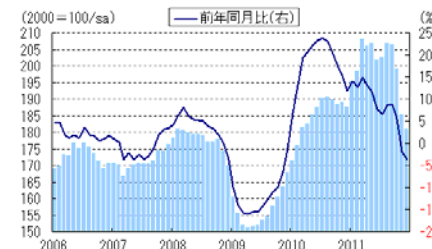
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-5 民間消費



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-6 民間投資



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

- 1 月の消費者物価は前年比+3.38%と前月（同+3.53%）から減速した。食料品価格は落ち着いているものの、エネルギー価格の上昇を背景に前月比は+0.39%と前月（同▲0.48%）から加速した。コア物価は前年比+2.75%と前月（同+2.66%）から加速し、前月比も+0.26%と前月（同+0.11%）から加速しているが、比較的低水準で推移している。

図 TH-7 消費者物価（前年比）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-9 為替相場（月次）



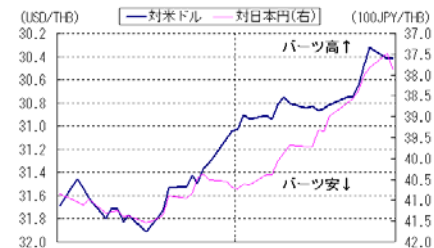
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-10 株式相場（月次）



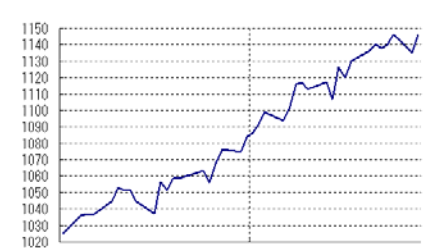
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜インドネシア主要経済指標＞

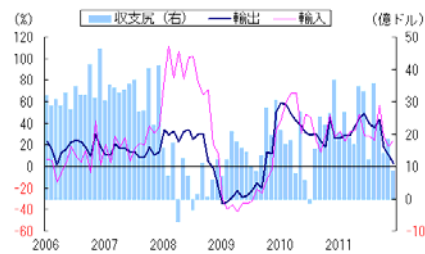
- 10-12 月期の実質 GDP 成長率は前年比+6.49%と前期（同+6.46%）から横這いだった。前期比年率は+9.0%と前期（同+5.6%）から加速しており、個人消費が堅調に推移している上、公共投資や対内直接投資による設備投資の活況も景気を押し上げている。
- 12 月の輸出額は前年比+2.2%と前月（同+10.2%）から減速した。世界経済の減速を反映して前月比は減少し、資源以外の需要が頭打ちしている。輸入額は前年比+24.3%と前月（同+18.3%）から加速、前月比も増加して単月ベースの輸入額は過去最高となった。結果、貿易収支は+8.59 億ドルと前月（+18.42 億ドル）から黒字幅は縮小した。

図 ID-1 実質 GDP 成長率



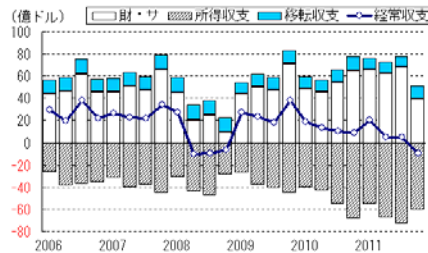
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-2 貿易動向



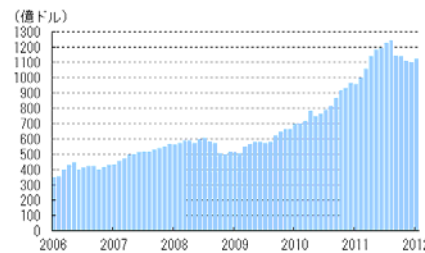
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-3 経常収支



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-4 外貨準備高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-5 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

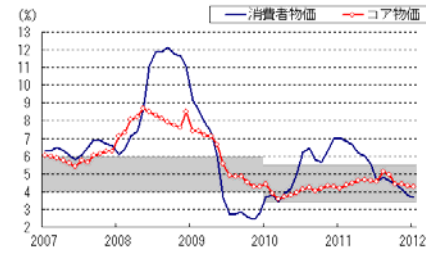
図 ID-6 小売売上高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

- 1 月の消費者物価は前年比+3.65%と前月（同+3.79%）から減速した。食料品やエネルギー価格の上昇を背景に前月比は+0.76%と前月（同+0.57%）から加速し、旺盛な内需をけん引役とする堅調な景気によりコア物価も前月比+0.44%と前月（同+0.28%）から加速しているが、ベース効果などにより前年比は+4.29%減速している。
- 9 日、インドネシア銀行は金融政策委員会で政策金利である B I レートを 3 回ぶりに 50bp 引き下げて 5.50%とする決定を行った。足下の景気は堅調であるが、当局は世界経済の減速による景気の先行きを懸念し、昨年 10 月同様に「予防的な観点」から利下げを決定した。インフレ率はしばらく低下しようが、先行きの金融政策は慎重な対応が求められよう。

図 ID-7 消費者物価(前年比)



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-9 為替相場(月次)



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-10 株式相場(月次)



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-11 為替相場(日次)



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-12 株式相場(日次)



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

<フィリピン主要経済指標>

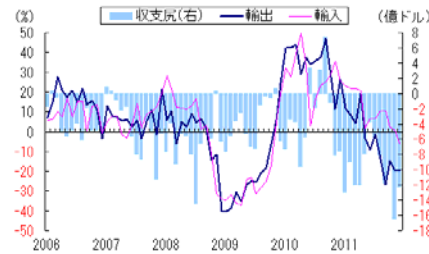
- 10-12 月期の実質GDP成長率は前年比+3.7%と前期（同+3.6%）から加速した。前期比年率も+3.5%と前期（同+3.3%）から加速し、世界経済の減速にも拘らず底堅い景気が続いた。米国経済の堅調を背景に移民労働者送金は底堅く、個人消費を下支えしている。
- 12 月の輸出額は前年比▲18.9%と前月（同▲19.4%）からマイナス幅が縮小した。前月比も2ヶ月ぶりに増加しており、代替需要の増加が輸出を下支えた。一方の輸入額は前年比▲6.5%と26ヶ月ぶりに前年割れとなり、前月比も減少した。結果、貿易収支は▲12.21億ドルと前月（▲16.48億ドル）から赤字幅が縮小した。

図 PH-1 実質 GDP 成長率



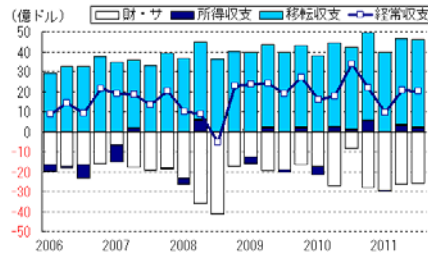
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-2 貿易動向



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-3 経常収支



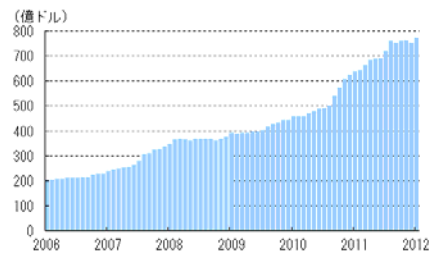
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-5 海外労働者送金



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-4 外貨準備高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

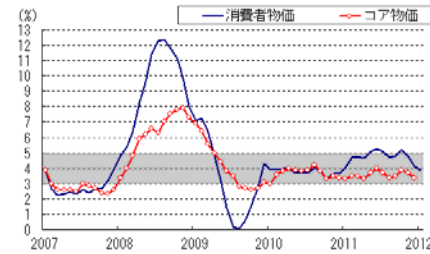
図 PH-6 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

- 1 月の消費者物価は前年比+3.9%と前月（同+4.2%）から減速した。食料品価格は落ち着いている一方、エネルギー価格の上昇を背景に前月比は+0.16%と前月（同+0.08%）から加速した。足下ではコア物価も落ち着いており、物価上昇圧力に一服感が出ている。

図 PH-7 消費者物価（前年比）



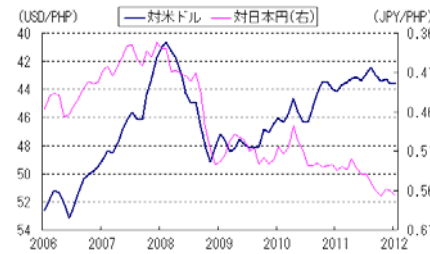
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-9 為替相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜ベトナム主要経済指標＞

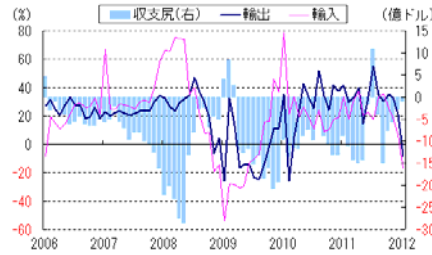
- 1月の輸出額は前年比▲8.3%と23ヶ月ぶりに前年割れとなり、中国の春節連休の影響で前月比も大きく減少した。一方の輸入も前年比▲17.2%と29ヶ月ぶりに前年割れとなり、政府による輸入抑制策などの影響で前月比も大幅に減少した。結果、貿易収支は▲1.00億ドルと前月（▲2.69億ドル）から赤字幅が縮小した。

図 VN-1 実質 GDP 成長率



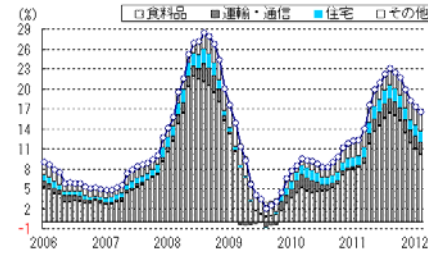
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-2 貿易動向



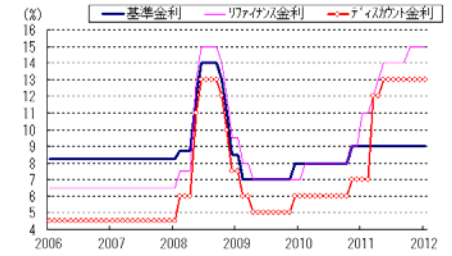
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-7 消費者物価（前年比）



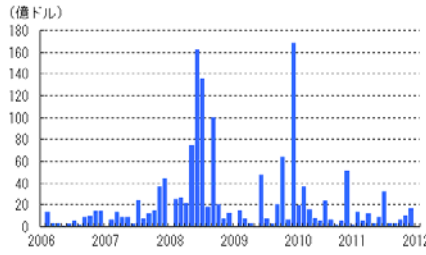
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-3 対内直接投資認可額



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-4 来訪者数



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-9 為替相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-10 株式相場（月次）



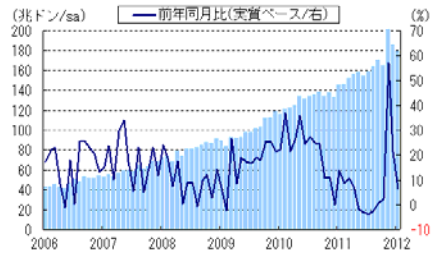
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-5 鉱工業生産



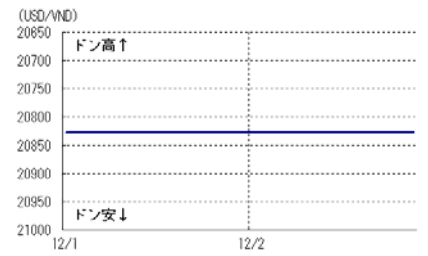
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-6 小売売上高



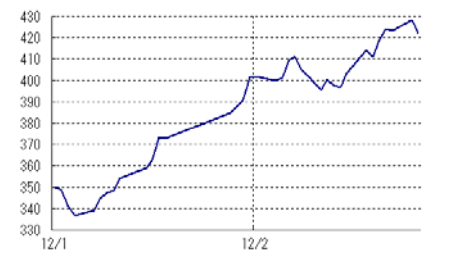
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成